

音楽アーティスト科 シンガーソングライターコース 受講科目一覧 2年次

楽器・弾き語り専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養Ⅱ	74	2	4
講義	音楽理論/調音Ⅱ	74	2	4
講義	音楽史Ⅱ	74	2	4
講義	作曲編曲Ⅱ	74	2	4
実習	作品制作	148	4	4
実習	歌唱/演奏基礎技術Ⅱ	74	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術Ⅱ	74	2	2
実習	サウンドアナライズⅡ	74	2	2
演習	アンサンブル基礎Ⅱ	74	2	4
演習	アンサンブル応用Ⅱ	74	2	4
実習	分野別実習Ⅱ	74	2	2
合計		888	22	36

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オリジナルソング①Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<p>楽曲「小さな光」「少しだけ」「少年」などメジャーレーベルからCDをリリース。 自身もDUOでシンガーソングライターとして精力的にライブ活動を実施している。 上記の経験を生かし、職業として求められる「作曲編曲の技術と知識」などの指導を行う。</p>				
授業概要					
<p>作詞作曲に必要なアイデアを増やす。メロディー作り。コード進行の構築。リズムの種類に対する理解。作文ポエムに終わらないような歌詞作り。生徒自身が作成したオリジナル楽曲に対する編曲をする。編曲における各種楽器の理解。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 生徒が作曲する作品の多くは、偏ったジャンル、かつ狭い範囲で制作されることがほとんどであるため、生徒が持ち合わせていないような、作詞作曲に関する知識、情報、テクニックを紹介し、センスの幅を広げてもらうこと。 生徒本人が持つ個性を自覚させ、その個性を武器として卒業後もその個性を追求しアーティストとして作品作りができるようにする。 オリジナル曲をボイスメモ弾き語りで完結させずPC上で管理し自身のプロモーション活動及びアレンジャー委託用のヘッドアレンジができるようにする。(T専は自身で簡易アレンジから完成まで、弾き専はアレンジャー用のVo.Ag等のベーシクトラックをBPMで録音しアレンジのオーダーシートを提出) 各楽器の役割アプローチを理解する。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	オリジナル楽曲① ピックアップを用いたメロディと着地先のコード感という要素を認識して波長を感じる楽曲作り。
【前期】 5～8回目	オリジナル楽曲② 効果的なブレイクを大胆に用いた楽曲構成を意識して製作。
【前期】 9～12回目	オリジナル楽曲③ ライブ時の前後のラインナップを意識し楽曲の展開の仕方を体験。ステージのライブ感を増長させる。
【前期】 13～16回目	オリジナル楽曲④ サビのメロディモチーフを後奏で余韻として使用し、オーディエンスと共有できる作風。
【前期】 17～19回目	校内イベントライブ公演実習期間 前期の楽曲からアーティスト象を再考し進路を定める。 ■前期試験：発表「クオリティ/技術力/知識力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	オリジナル楽曲⑤ J-popの枠からではなく、ルーツミュージックからの要素を引用した楽曲作り。
【後期】 24～27回目	オリジナル楽曲⑥ 楽曲間でバンドメンバーのコールをリレーできるような楽曲作り。
【後期】 28～31回目	オリジナル楽曲⑦ etc.と期間ごとに裏テーマを加味しながら、あくまでInput&Outputを有意義に繰り返して
【後期】 32～35回目	オリジナル楽曲⑧ 個々の成長を目指します。
【後期】 36～37回目	卒業イベントライブ公演実習期間
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	1年次で得た基本的な技術を、センスに変えて表現していく1年。決して楽ではないですし、困難も立ちちはかかるかもしれませんが、成りたい自分と向き合って、思いっきり表現することで得られる経験はあなただけの特別なものです。Let's Enjoy!
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オリジナルソング②Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	楽曲「小さな光」「少しだけ」「少年」などメジャーレーベルからCDをリリース。 自身もDUOでシンガーソングライターとして精力的にライブ活動を実施している。 上記の経験を生かし、職業として求められる「作曲編曲の技術と知識」などの指導を行う。				
授業概要					
<p>作詞作曲に必要なアイデアを増やす。メロディー作り。コード進行の構築。リズムの種類に対する理解。作文ポエムに終わらないような歌詞作り。生徒自身が作成したオリジナル楽曲に対しての編曲をする。編曲における各種楽器の理解。 「オリジナルソング①Ⅱ」授業の内容を更に応用と発展させ、オリジナル楽曲を高いクオリティで完成を目指す。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 生徒が作曲する作品の多くは、偏ったジャンル、かつ狭い範囲で制作されることがほとんどであるため、生徒が持ち合わせていないような、作詞作曲に関する知識、情報、テクニックを紹介し、センスの幅を広げてもらうこと。 生徒本人が持つ個性を自覚させ、その個性を武器として卒業後もその個性を追求しアーティストとして作品作りができるようにする。 オリジナル曲をボイスメモ弾き語りで完結させずPC上で管理し自身のプロモーション活動及びアレンジャー委託用のヘッドアレンジができるようにする。(T専は自身で簡易アレンジから完成まで、弾き専はアレンジャー用のVo.Ag等のベーシクトラックをBPMで録音しアレンジのオーダーシートを提出) 各楽器の役割アプローチを理解する。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	オリジナル楽曲① ピックアップを用いたメロディと着地先のコード感という要素を認識して波長を感じる楽曲作り。 「オリジナルソング①Ⅱ」の授業を元に応用・発展させた内容で授業を実施する。
【前期】 5～8回目	オリジナル楽曲② 効果的なブレイクを大胆に用いた楽曲構成を意識して製作。 「オリジナルソング①Ⅱ」の授業を元に応用・発展させた内容で授業を実施する。
【前期】 9～12回目	オリジナル楽曲③ ライブ時の前後のラインナップを意識し楽曲の展開の仕方を体験。ステージのライブ感を増長させる。 「オリジナルソング①Ⅱ」の授業を元に応用・発展させた内容で授業を実施する。
【前期】 13～16回目	オリジナル楽曲④ サビのメロディモチーフを後奏で余韻として使用し、オーディエンスと共有できる作風。 「オリジナルソング①Ⅱ」の授業を元に応用・発展させた内容で授業を実施する。
【前期】 17～19回目	校内イベントライブ公演実習期間 前期の楽曲からアーティスト象を再考案し進路を定める。
【後期】 20～23回目	オリジナル楽曲⑤ J-popの枠からではなく、ルーツミュージックからの要素を引用した楽曲作り。 「オリジナルソング①Ⅱ」の授業を元に応用・発展させた内容で授業を実施する。
【後期】 24～27回目	オリジナル楽曲⑥ 楽曲間でバンドメンバーのコールをリレーできるような楽曲作り。 「オリジナルソング①Ⅱ」の授業を元に応用・発展させた内容で授業を実施する。
【後期】 28～31回目	オリジナル楽曲⑦ etc.と期間ごとに裏テーマを加味しながら、あくまでInput&Outputを有意義に繰り返して 「オリジナルソング①Ⅱ」の授業を元に応用・発展させた内容で授業を実施する。
【後期】 32～35回目	オリジナル楽曲⑧ 個々の成長を目指します。 「オリジナルソング①Ⅱ」の授業を元に応用・発展させた内容で授業を実施する。
【後期】 36～37回目	卒業イベントライブ公演実習期間
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	1年次で得た基本的な技術を、センスに変えて表現していく1年。決して楽ではないですし、困難も立ちちはかかるかもしれませんが、成りたい自分と向き合って、思いっきり表現することで得られる経験はあなただけの特別なものです。Let's Enjoy!
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	引き語りの歴史と体系Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・Back Number、中村 正人(DREAMS COME TRUE)等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・自身もシンガーソングライターとして九州各地でライブ活動を行う。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、楽器知識等」の指導を行う。 				
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・過去の名曲を知り、コピー、歌唱。 ・時代背景から歌詞の内容を分析。 ・コード進行や、メロディーラインなど分析。 					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・過去の曲などを分析することで、自分で作る曲に活かせるようになる。 ・過去の歌詞の歌い直しなどを昇華し、自分の歌い直しとして使えるようにする。 ・メロディーやコード進行などを自分の曲に活かせるようになる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	1950年代の邦洋楽曲、ヒットチャート、時代背景の分析。楽曲のリズム、コード進行、歌詞の傾向などを分析、レクチャー。 該当年代の楽曲の選定、コピー、演奏と歌唱、発表会実施。
【前期】 5～8回目	1960年代の邦洋楽曲、ヒットチャート、時代背景の分析。楽曲のリズム、コード進行、歌詞の傾向などを分析、レクチャー。 該当年代の楽曲の選定、コピー、演奏と歌唱、発表会実施。
【前期】 9～12回目	1970年代の邦洋楽曲、ヒットチャート、時代背景の分析。楽曲のリズム、コード進行、歌詞の傾向などを分析、レクチャー。 該当年代の楽曲の選定、コピー、演奏と歌唱、発表会実施。
【前期】 13～16回目	1980年代の邦洋楽曲、ヒットチャート、時代背景の分析。楽曲のリズム、コード進行、歌詞の傾向などを分析、レクチャー。 該当年代の楽曲の選定、コピー、演奏と歌唱、発表会実施。
【前期】 17～19回目	学生任意の時代を意識したオリジナル楽曲の作成。作成した楽曲のディスカッション。発表会実施。 ■前期試験：楽曲の発表と筆記により「クオリティ/技術力/知識力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	1990年代の邦洋楽曲、ヒットチャート、時代背景の分析。楽曲のリズム、コード進行、歌詞の傾向などを分析、レクチャー。 該当年代の楽曲の選定、コピー、演奏と歌唱、発表会実施。
【後期】 24～27回目	2000年代の邦洋楽曲、ヒットチャート、時代背景の分析。楽曲のリズム、コード進行、歌詞の傾向などを分析、レクチャー。 該当年代の楽曲の選定、コピー、演奏と歌唱、発表会実施。
【後期】 28～31回目	2010年代の邦洋楽曲、ヒットチャート、時代背景の分析。楽曲のリズム、コード進行、歌詞の傾向などを分析、レクチャー。 該当年代の楽曲の選定、コピー、演奏と歌唱、発表会実施。
【後期】 32～35回目	オリジナル楽曲の作成。作成した楽曲のディスカッション。発表会実施。
【後期】 36～37回目	1年間のまとめ。今後の楽曲制作、セルフマネージメントについて、ディスカッション。 ■後期試験：楽曲の発表と筆記により「クオリティ/技術力/知識力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽曲発表 / 知識力」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	古きを知り、新しきを生む。時代時代に合った楽曲が売れているのは確かです。 昔のサウンドが苦手な人も、たくさんのメロディーやコード進行に触れることで、新しい曲として昇華できるかもしれません。 そんな出会いの機会と思っていただければ幸いです。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ソングライティングⅡ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	作曲編曲Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・セイカ食品 シロクマ、ヴァーナル化粧品、アサカワ引越しセンター等のテレビCMコール ・シンガーソングライターとして、精力的にライブ活動を行い、CDもリリースしている。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「楽曲制作の技術と知識、歌唱技術等」の指導を行う。				
授業概要					
作詞作曲に必要なアイデアを増やす。メロディー作り。コード進行の構築。リズムの種類に対する理解。作文・ポエムにならないような曲作り。					
到達目標					
・生徒が作曲する作品の多くは偏ったジャンル、かつ狭い範囲で作成することが殆どである為、生徒が持ち合わせていない作詞作曲に関する知識、情報、テクニックを紹介し、センスの幅を広げてもらう。					
・生徒本人が持つ個性を自覚し、その個性を武器として、卒業後もその個性を追求し、アーティストとして作品作りが出来るようにする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ミディアムテンポで楽曲を作成。イーブンやシャッフルの意識を再確認してもらう。作詞にて、景色と気持ちのバランス、慣用句の使い方、固有名詞を入れるポイントを捉える。
【前期】 5～8回目	アップテンポで楽曲を作成。ハイテンポにおけるコードの適切な配置、ブレイクやキメなどのリズムの仕掛け作り。歌詞、ワードに対するポジティブとネガティブの切り分け、スピード感のある言葉などを捉える。
【前期】 9～12回目	スローテンポ(バラード)で楽曲を作成。スローテンポにおける歌詞とコードの関係、響きを思考し、ギター、ピアノで弾き語る際のバリエーションを増やす。3拍子、6/8拍子、3連のリズムで楽曲を作成。拍子の理解を深める。
【前期】 13～16回目	マイナーKeyで楽曲を作成。メジャースケール、マイナースケールのおさらい。ハーモニックマイナー、メロディックマイナー、マイナーペンタニック、その他様々なスケールを使ったメロディ作りの実践。
【前期】 17～19回目	シャッフルビートで楽曲を作成。8ビートシャッフル、16ビートシャッフルの実践的な使い方。ダイアトニックコード、代理コード、セカンダリドミナントなど、コード理論の再認識。 ■前期試験: 楽曲の制作により「作曲のクオリティ/作詞のクオリティ/音楽要素の理解」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	ロックンロールで楽曲を作成。ロックンロールの定義についての研究。ロックとロックンロールの違いについて、ギターやピアノでのアプローチも含めて解説。子音、母音のタイミングなど、言葉のリズムについて考える。
【後期】 24～27回目	ブルースで楽曲を作成。ブルースを構築するコード、小節の理解。ブルーノートを使ったメロディを意識する。R&Bで楽曲を制作。昨今のリズムアンドブルースについて研究。リズム、アンサンブル、サウンドから”ノリ”について掘り下げる。
【後期】 28～31回目	ボサノヴァで楽曲を作成。ボサノヴァの文化について、J-Popにおけるボサノヴァの使われ方を研究。ボサノヴァとサンバの違いについて理解する。モントゥーノ奏法について解説。ウイスパーボイスなど、楽曲に合わせた発声の研究。
【後期】 32～35回目	レゲエで楽曲を制作。レゲエの歴史について調べる。黒レゲエと白レゲエの違い。裏拍、バックビートの使い方、ギターの音色について研究。HIP HOPで楽曲を作成。HIP HOPの歴史について調べる。J-Popとの関わり。ワードの乗せ方など。
【後期】 36～37回目	ルーツミュージックを踏まえた楽曲の作成。習得してきた知識、情報、テクニックを駆使し、自身の個性を活かした楽曲を制作。様々な選択肢の中から、意思を持って取捨選択する。卒業後に向けてより実践的な作詞作曲。 ■後期試験: 楽曲の制作により「作曲のクオリティ/作詞のクオリティ/音楽要素の理解」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	作詞作曲は、シンガーソングライターやその他の音楽業界に於いても核となるとも重要な業務です。そして活動の限り作り続けていかなければなりません。楽曲へアウトプットしていくために必要な情報や知識のインプットとその方法を、様々な角度から音楽に触れて楽しみながらしっかり学んでいきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオワーク		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	作品制作	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギターヴォーカル/ギター/ベース/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<p>・セイカ食品 シロクマ、ヴァーナル化粧品、アサカワ引越しセンター等のテレビCMコール</p> <p>・シンガーソングライターとして、精力的にライブ活動を行い、CDもリリースしている。</p> <p>上記の経歴を活かし、職業として求められる「楽曲制作の技術と知識、歌唱技術等」の指導を行う。</p>				
授業概要					
<p>基礎課程で積み上げてきた知識、技能の総体としてクリエイティブな応用実践で音楽やパフォーマンス作品を作り上げていきます。また、グループプロジェクトとして企画、打合せ、譜面制作、リハーサル、レコーディング、ステージ本番に至るスケジューリングを行い、構成員の考えや芸術観などお互いにコネクトしながらより良い制作の方法を考えることにも重点を置きます。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・エンターテインメントの基本構造の理解、表現学習、作品制作、ステージ発表などを習得のサイクルとし、徐々に表現レベルを上げていきます。 ・メンバー全員でひとつのプロジェクトを作ることを経験し、今後の活動に生かすことが出来るようにし、且つクオリティーの高い楽曲制作と演奏が出来るようにシミュレーションを重ねます。 ・自身のポテンシャルを高めて、将来的な可能性の幅を広げることが可能になります。 ・チームワーク、協調性を養います。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	決められたメンバーと協力し合い、ひとつのプロジェクトを作り、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【前期】 9～16回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【前期】 17～24回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【前期】 25～32回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【前期】 33～38回目	前期の授業で制作してきた作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■前期試験：作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 39～46回目	後期はより高度なプロジェクトコンセプトをグループごとに思考し、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【後期】 47～54回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【後期】 55～62回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【後期】 63～70回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【後期】 71～74回目	後期の授業で制作した作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■後期試験：作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一作品をグループで作りに上げるプロセスの中で生じる葛藤や苦悩という生みの苦しみを経験しながら、作品完成時に感じる達成感や喜びを授業を通してシミュレーションしておきましょう。また基礎課程で培ったパーツを組み合わせる応用課程のクリエイティビティも存分に発揮してください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニングⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター/ギターヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	The 8th Music Revolution Hi-Gain大会でグランプリを獲得。・V3新人オーディション20thファイナリストに選出)そのポテンシャルの高さを披露。2012年には、Fukuoka Music Factoryの第6弾ファイナルアーティストに選出さる。2016佐賀年気球世界選手権応援ソングに「Life」が採用される。2020年配信弾き語りワンマンライブ「Voyage」を開催。				
授業概要					
歌唱の基礎であるチェストボイス～ミックスボイス(ミドル)～ヘッドボイスの声区融合とリズム感を習得していく。また様々な歌唱テクニックを習得していく。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・様々なスケールを用い、声区融合を目指す。また、4分音符、8分音符、1拍3連、16分音符のリズムを体で理解し、歌唱へ反映させていく。 ・様々な歌唱テクニックを習得し歌唱へ反映させていく。 ・チェストボイス～ミックスボイス(ミドル)～ヘッドボイスの声区融合の習得。歌唱のためのリズム感を習得。様々な歌唱テクニックを習得。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	個人発声状態チェック。トレーニングメニュー説明&実践。スケール発声。リズムトラックを使ったリズムトレーニング。
【前期】 5～8回目	Level1の発声とリズムのトレーニングメニュー実践。課題曲①での実践。(チェストボイス、裏声、ウイスパー等のテクニックに挑戦。)
【前期】 9～12回目	Level2の発声とリズムのトレーニングメニュー実践。課題曲②での実践。(コブシ、しゃくり、フォールのテクニックに挑戦。)
【前期】 13～16回目	Level3の発声とリズムのトレーニングメニュー実践。課題曲③での実践。総合的ボーカルディレクション。
【前期】 17～19回目	まとめ。テスト対策。 ■前期試験：課題曲の歌唱により「発声に関する用語、仕組み/発声 / リズム」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	Level5の発声とリズムのトレーニングメニュー実践。課題曲⑤での実践。総合的ボーカルディレクション。
【後期】 24～27回目	Level6の発声とリズムのトレーニングメニュー実践。課題曲⑥での実践。総合的ボーカルディレクション。
【後期】 28～31回目	Level7の発声とリズムのトレーニングメニュー実践。課題曲⑦での実践。総合的ボーカルディレクション。
【後期】 32～35回目	Level8の発声とリズムのトレーニングメニュー実践。課題曲⑧での実践。総合的ボーカルディレクション。
【後期】 36～37回目	まとめ。テスト対策。 ■後期試験：課題曲の歌唱により「発声に関する用語、仕組み/発声 / リズム」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「発声に関する用語、仕組み/発声 / リズム」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	発声とリズムは歌唱の基礎で最も重要な技術です。しっかりと向き合うことにより確実に成長させましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	歌唱実習Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	The 8th Music Revolution Hi-Gain大会でグランプリを獲得。・V3新人オーディション20thファイナリストに選出)そのポテンシャルの高さを披露。2012年には、Fukuoka Music Factoryの第6弾ファイナルアーティストに選出される。2016佐賀年気球世界選手権応援ソングに「Life」が採用される。2020年配信弾き語りワンマンライブ「Voyage」を開催。				
授業概要					
自ら選んだ楽曲を歌いこみながらテクニックをきめ細やかに、また感情表現をより深めながらシンガーとしての自らをワークショップスタイルの中で確立していきます。生徒それぞれにまだ獲得できていない表現方法を課題曲として与え、獲得に導く。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた課題曲に対し、生徒自身がその楽曲に合う表現方法を考慮しパフォーマンスすることができるようになる。 ・既存曲のカバーをする際も、オリジナル曲を自身でパフォーマンスする際も、オーディエンスに届く歌唱、音色(声色)選びができるような思考を定着させる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	課題曲1(日本語の楽曲で自由選択)
【前期】 5～8回目	課題曲2(日本語の楽曲、それぞれに必要なテクニックのある楽曲を講師より)
【前期】 9～12回目	課題曲3(英語の楽曲で自由選択)
【前期】 13～16回目	課題曲4(英語の楽曲、それぞれに必要なテクニックのある楽曲を講師より)
【前期】 17～19回目	表現・パフォーマンス(課題曲1～4の中で1曲をライブシミュレートパフォーマンス) ■前期試験:課題曲の歌唱により「歌唱時の音色(声色)の使い方 / 歌詞への理解度 / 総合表現力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	レパートリー1(自身の財産となるようなレパートリー楽曲の追求)
【後期】 24～27回目	レパートリー2(自身の財産となるようなレパートリー楽曲の追求)
【後期】 28～31回目	レパートリー3(自身の財産となるようなレパートリー楽曲の追求)
【後期】 32～35回目	レパートリー4(自身の財産となるようなレパートリー楽曲の追求)
【後期】 36～37回目	模擬ライブパフォーマンス(課題曲1～4&レパートリー1～4の中から数曲を選択し一定時間、MCも含め20分ほどのライブパフォーマンスを構築する) ■後期試験:課題曲の歌唱により「歌唱時の音色(声色)の使い方 / 歌詞への理解度 / 総合表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「歌唱時の音色(声色)の使い方 / 歌詞への理解度 / 総合表現力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	表現の幅、歌唱における様々なテクニックなど、さらにより高度なものへと押し上げ、自分自身がどのように表現したいのかをオーディエンスに確実に伝えることができるように磨き上げていきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	シンガーソングライター実習Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・Back Number、中村 正人(DREAMS COME TRUE)等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・自身もシンガーソングライターとして九州各地でライブ活動を行う。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、楽器知識等」の指導を行う。				
授業概要					
実践を想定して各自テーマ毎に課題曲(主にオリジナル)を決め、歌唱力、演奏力、表現力を高めていきます。また、他生徒の楽曲にもコーラス・楽器演奏等で参加し、音楽の幅を広げます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の構成や「歌詞」「メロディー」「コード」「リズム」「ダイナミクス」から表現の意図を理解する。 ・自身の個性(良し悪し)を自ら理解する。 ・課外ステージでも披露できる楽曲(持ち曲)を増やす。 ・楽曲の構成や表現の意図を理解することで、作詞、作曲、編曲時に推敲することができる。 ・自ら気づきを持つことで、自身を高め続けることができる。 ・他パートやリスナーへ、自身の考えや曲のイメージを伝えることができる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	授業趣旨の共有、理解。【課題曲①】楽曲考察。資料作成。【課題曲①】アレンジを数パターン思考。弾き語り(もしくは自作音源)にて、各アレンジで演奏。表現効果の考察。歌唱、表現の練習。プロのカバー音源を参考に、アーティスト研究。
【前期】 5～8回目	【課題曲②】各自由決め、キー設定、楽曲考察。資料作成。【課題曲②】アレンジ思考。弾き語り(もしくは自作音源)にて楽曲のベース作り。歌唱、リズム練習。【課題曲②】他パートへ思考を伝え、表現、歌唱の練習。表現効果考察。
【前期】 9～12回目	【課題曲③】各自由決め、キー設定、楽曲考察。資料作成。【課題曲③】アレンジ思考。弾き語り(もしくは自作音源)にて楽曲のベース作り。歌唱、リズム練習。【課題曲③】他パートへ思考を伝え、表現、歌唱の練習。表現効果考察。
【前期】 13～16回目	【課題曲④】各自由決め、キー設定、楽曲考察。資料作成。【課題曲④】アレンジ思考。弾き語り(もしくは自作音源)にて楽曲のベース作り。歌唱、リズム練習。【課題曲④】他パートへ思考を伝え、表現、歌唱の練習。表現効果考察。
【前期】 17～19回目	前期テストに向けて、楽曲決め、キー設定、資料作成。アレンジ思考。弾き語り(もしくは自作音源)にて楽曲のベース作り。歌唱、リズム練習。表現効果考察。 ■前期試験:課題曲の歌唱・演奏により「楽曲の理解 / 表現力 / 演奏力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【課題曲⑤】各自由決め、キー設定、楽曲考察。資料作成。【課題曲⑤】アレンジ思考。弾き語り(もしくは自作音源)にて楽曲のベース作り。歌唱、リズム練習。【課題曲⑤】他パートへ思考を伝え、表現、歌唱の練習。表現効果考察。
【後期】 24～27回目	【課題曲⑥】各自由決め、キー設定、楽曲考察。資料作成。【課題曲⑥】アレンジ思考。弾き語り(もしくは自作音源)にて楽曲のベース作り。歌唱、リズム練習。【課題曲⑥】他パートへ思考を伝え、表現、歌唱の練習。表現効果考察。
【後期】 28～31回目	【課題曲⑦】各自由決め、キー設定、楽曲考察。資料作成。【課題曲⑦】アレンジ思考。弾き語り(もしくは自作音源)にて楽曲のベース作り。歌唱、リズム練習。【課題曲⑦】他パートへ思考を伝え、表現、歌唱の練習。表現効果考察。
【後期】 32～35回目	【課題曲②～⑦】実践を想定し、各20分程のクラスライブを実施。これまでの課題曲を含めた複数の楽曲とMCを交え、ステージングを習得する。
【後期】 36～37回目	後期テストに向けて、楽曲決め、キー設定、資料作成。アレンジ思考。弾き語り(もしくは自作音源)にて楽曲のベース作り。歌唱、リズム練習。表現効果考察。1年のまとめ。 ■後期試験:課題曲の歌唱・演奏により「楽曲の理解 / 表現力 / 演奏力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽曲の理解 / 表現力 / 演奏力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	昨今のシンガーソングライターの在り方は様々です。楽曲を通して何を伝えたいのか、伝えたいことをどう表現するのか、その内容や方法は無限に存在します。自身の考えを模索しながら、「これだ!」というオリジナリティを見つけていきましょう。そのイメージを相手に伝えることも、音楽に限らず重要です。身につけましょう。自分にあった伝え方が必ずあります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オリジナルライブ実習Ⅱ①		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<p>楽曲「小さな光」「少しだけ」「少年」などメジャーレーベルからCDをリリース。 自身もDUOでシンガーソングライターとして精力的にライブ活動を実施している。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「歌唱と演奏の技術、アンサンブル力、表現力等」の指導を行う。</p>				
授業概要	<p>製作系の授業を通してアウトプットしたオリジナル楽曲を、バンドアンサンブルを用いて実演、歌唱し、アーティスト像を形成していく。また他の楽器プレイヤーとのリレーションを理解し行動していくことで人間関係の構築の仕方なども磨いていく。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アーティスト像を前面に押し出すためのパフォーマンスを意識したライブ感(バンドサウンドのダイナミクス、希望する照明の演出を含めて)を追求し研鑽する。 ・楽曲のバリエーションを多岐に渡らせ、オーディエンスを飽かさせないサウンド志向を自身のアーティスト像とパッケージングする。 ・校外に出て活動をする際に、どの業種の人材と関わる際にも、準備、段取りを大事にする姿勢を完成させる。(自身の作る作品が他人の仕事を作るエンターテインメントありうる事を自覚させる。) 				

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	オリジナル楽曲① ※随時、実習時のパフォーマンステーマは製作のテーマとリンクしますので別紙で確認。
【前期】 5～8回目	オリジナル楽曲②
【前期】 9～12回目	オリジナル楽曲③
【前期】 13～16回目	オリジナル楽曲④
【前期】 17～19回目	校内イベントライブ公演実習期間
【後期】 20～23回目	オリジナル楽曲⑤
【後期】 24～27回目	オリジナル楽曲⑥
【後期】 28～31回目	オリジナル楽曲⑦
【後期】 32～35回目	オリジナル楽曲⑧
【後期】 36～37回目	卒業イベントライブ公演実習期間
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「クオリティ / 表現力 / 演奏力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	1年次からすれば、オリジナルソングの製作ベースがかなり早いですし、大変ですが前向きに頑張りましょう！！
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オリジナルライブ実習Ⅱ②		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<p>楽曲「小さな光」「少しだけ」「少年」などメジャーレーベルからCDをリリース。 自身もDUOでシンガーソングライターとして精力的にライブ活動を実施している。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「歌唱と演奏の技術、アンサンブル力、表現力等」の指導を行う。</p>				
授業概要					
<p>製作系の授業を通してアウトプットしたオリジナル楽曲を、バンドアンサンブルを用いて実演、歌唱し、アーティスト像を形成していく。また他の楽器プレイヤーとのリレーションを理解し行動していくことで人間関係の構築の仕方なども磨いていく。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・アーティスト像を前面に押し出すためのパフォーマンスを意識したライブ感(バンドサウンドのダイナミクス、希望する照明の演出を含めて)を追求し研鑽する。 ・楽曲のバリエーションを多岐に渡らせ、オーディエンスを飽きさせないサウンド志向を自身のアーティスト象とパッケージングする。 ・校外に出て活動をする際に、どの業種の人材と関わる際にも、準備、段取りを大事にする姿勢を完成させる。(自身の作る作品が他人の仕事を作るエンターテインメントありうる事を自覚させる。) 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	オリジナル楽曲① ※随時、実習時のパフォーマンステーマは製作のテーマとリンクしますので別紙で確認。
【前期】 5～8回目	オリジナル楽曲②
【前期】 9～12回目	オリジナル楽曲③
【前期】 13～16回目	オリジナル楽曲④
【前期】 17～19回目	校内イベントライブ公演実習期間
【後期】 20～23回目	オリジナル楽曲⑤
【後期】 24～27回目	オリジナル楽曲⑥
【後期】 28～31回目	オリジナル楽曲⑦
【後期】 32～35回目	オリジナル楽曲⑧
【後期】 36～37回目	卒業イベントライブ公演実習期間
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「クオリティ / 表現力 / 演奏力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	1年次からすれば、オリジナルソングの製作ベースがかなり早いですし、大変ですが前向きに頑張りましょう！！
備考	

音楽アーティスト科 シンガーソングライターコース 受講科目一覧 2年次

DTM・トラックメイキング専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養Ⅱ	74	2	4
講義	音楽理論/調音Ⅱ	74	2	4
講義	音楽史Ⅱ	74	2	4
講義	作曲編曲Ⅱ	74	2	4
実習	作品制作	148	4	4
実習	歌唱/演奏基礎技術Ⅱ	74	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術Ⅱ	74	2	2
実習	サウンドアナライズⅡ	74	2	2
演習	アンサンブル基礎Ⅱ	74	2	4
演習	アンサンブル応用Ⅱ	74	2	4
実習	分野別実習Ⅱ	74	2	2
合計		888	24	36

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オリジナルソング①Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<p>楽曲「小さな光」「少しだけ」「少年」などメジャーレーベルからCDをリリース。 自身もDUOでシンガーソングライターとして精力的にライブ活動を実施している。 上記の経験を生かし、職業として求められる「作曲編曲の技術と知識」などの指導を行う。</p>				
授業概要					
<p>作詞作曲に必要なアイデアを増やす。メロディー作り。コード進行の構築。リズムの種類に対する理解。作文ポエムに終わらないような歌詞作り。生徒自身が作成したオリジナル楽曲に対しての編曲をする。編曲における各種楽器の理解。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 生徒が作曲する作品の多くは、偏ったジャンル、かつ狭い範囲で制作されることがほとんどであるため、生徒が持ち合わせていないような、作詞作曲に関する知識、情報、テクニックを紹介し、センスの幅を広げてもらうこと。 生徒本人が持つ個性を自覚させ、その個性を武器として卒業後もその個性を追求しアーティストとして作品作りができるようにする。 オリジナル曲をボイスメモ弾き語りで完結させずPC上で管理し自身のプロモーション活動及びアレンジャー委託用のヘッドアレンジができるようにする。(T専は自身で簡易アレンジから完成まで、弾き専はアレンジャー用のVo.Ag等のベーシクトラックをBPMで録音しアレンジのオーダーシートを提出) logic Xの操作習得、自身のオリジナル曲のファイル管理。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	オリジナル楽曲① ピックアップを用いたメロディと着地先のコード感という要素を認識して波長を感じる楽曲作り。
【前期】 5～8回目	オリジナル楽曲② 効果的なブレイクを大胆に用いた楽曲構成を意識して製作。
【前期】 9～12回目	オリジナル楽曲③ ライブ時の前後のラインナップを意識し楽曲の展開の仕方を体験。ステージのライブ感を増長させる。
【前期】 13～16回目	オリジナル楽曲④ サビのメロディモチーフを後奏で余韻として使用し、オーディエンスと共有できる作風。
【前期】 17～19回目	校内イベントライブ公演実習期間 前期の楽曲からアーティスト象を再考し進路を定める。 ■前期試験:発表「クオリティ/技術力/知識力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	オリジナル楽曲⑤ J-popの枠からではなく、ルーツミュージックからの要素を引用した楽曲作り。
【後期】 24～27回目	オリジナル楽曲⑥ 楽曲間でバンドメンバーのコールをリレーできるような楽曲作り。
【後期】 28～31回目	オリジナル楽曲⑦ etc.と期間ごとに裏テーマを加味しながら、あくまでInput&Outputを有意義に繰り返して
【後期】 32～35回目	オリジナル楽曲⑧ 個々の成長を目指します。
【後期】 36～37回目	卒業イベントライブ公演実習期間
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	1年次で得た基本的な技術を、センスに変えて表現していく1年。決して楽ではないですし、困難も立ちちはたかるとは思いますが、成りたい自分と向き合っ、思いっきり表現することで得られる経験はあなただけの特別なものです。Let's Enjoy!
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オリジナルソング②Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	楽曲「小さな光」「少しだけ」「少年」などメジャーレーベルからCDをリリース。 自身もDUOでシンガーソングライターとして精力的にライブ活動を実施している。 上記の経験を生かし、職業として求められる「作曲編曲の技術と知識」などの指導を行う。				
授業概要					
<p>作詞作曲に必要なアイデアを増やす。メロディー作り。コード進行の構築。リズムの種類に対する理解。作文ポエムに終わらないような歌詞作り。生徒自身が作成したオリジナル楽曲に対しての編曲をする。編曲における各種楽器の理解。 「オリジナルソング①Ⅱ」授業の内容を更に応用と発展させ、オリジナル楽曲を高いクオリティで完成を目指す。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 生徒が作曲する作品の多くは、偏ったジャンル、かつ狭い範囲で制作されることがほとんどであるため、生徒が持ち合わせていないような、作詞作曲に関する知識、情報、テクニックを紹介し、センスの幅を広げてもらうこと。 生徒本人が持つ個性を自覚させ、その個性を武器として卒業後もその個性を追求しアーティストとして作品作りができるようにする。 オリジナル曲をボイスメモ弾き語りで完結させずPC上で管理し自身のプロモーション活動及びアレンジャー委託用のヘッドアレンジができるようにする。(T専は自身で簡易アレンジから完成まで、弾き専はアレンジャー用のVo.Ag等のベーシクトラックをBPMで録音しアレンジのオーダーシートを提出) logic Xの操作習得、自身のオリジナル曲のファイル管理。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	オリジナル楽曲① ピックアップを用いたメロディと着地先のコード感という要素を認識して波長を感じる楽曲作り。 「オリジナルソング①Ⅱ」の授業を元に応用・発展させた内容で授業を実施する。
【前期】 5～8回目	オリジナル楽曲② 効果的なブレイクを大胆に用いた楽曲構成を意識して製作。 「オリジナルソング①Ⅱ」の授業を元に応用・発展させた内容で授業を実施する。
【前期】 9～12回目	オリジナル楽曲③ ライブ時の前後のラインナップを意識し楽曲の展開の仕方を体験。ステージのライブ感を増長させる。 「オリジナルソング①Ⅱ」の授業を元に応用・発展させた内容で授業を実施する。
【前期】 13～16回目	オリジナル楽曲④ サビのメロディモチーフを後奏で余韻として使用し、オーディエンスと共有できる作風。 「オリジナルソング①Ⅱ」の授業を元に応用・発展させた内容で授業を実施する。
【前期】 17～19回目	校内イベントライブ公演実習期間 前期の楽曲からアーティスト象を再考案し進路を定める。
【後期】 20～23回目	オリジナル楽曲⑤ J-popの枠からではなく、ルーツミュージックからの要素を引用した楽曲作り。 「オリジナルソング①Ⅱ」の授業を元に応用・発展させた内容で授業を実施する。
【後期】 24～27回目	オリジナル楽曲⑥ 楽曲間でバンドメンバーのコールをリレーできるような楽曲作り。 「オリジナルソング①Ⅱ」の授業を元に応用・発展させた内容で授業を実施する。
【後期】 28～31回目	オリジナル楽曲⑦ etc..と期間ごとに裏テーマを加味しながら、あくまでInput&Outputを有意義に繰り返して 「オリジナルソング①Ⅱ」の授業を元に応用・発展させた内容で授業を実施する。
【後期】 32～35回目	オリジナル楽曲⑧ 個々の成長を目指します。 「オリジナルソング①Ⅱ」の授業を元に応用・発展させた内容で授業を実施する。
【後期】 36～37回目	卒業イベントライブ公演実習期間
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	1年次で得た基本的な技術を、センスに変えて表現していく1年。決して楽ではないですし、困難も立ちちはたかるかもしれませんが、成りたい自分と向き合って、思いっきり表現することで得られる経験はあなただけの特別なものです。Let's Enjoy!
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	引き語りの歴史と体系Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・Back Number、中村 正人(DREAMS COME TRUE)等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・自身もシンガーソングライターとして九州各地でライブ活動を行う。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、楽器知識等」の指導を行う。				
授業概要					
・過去の名曲を知り、コピー、歌唱。 ・時代背景から歌詞の内容を分析。 ・コード進行や、メロディーラインなど分析。					
到達目標					
・過去の曲などを分析することで、自分で作る曲に活かせるようになる。 ・過去の歌詞の歌い直しなどを昇華し、自分の歌い直しとして使えるようにする。 ・メロディーやコード進行などを自分の曲に活かせるようになる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	1950年代の邦洋楽曲、ヒットチャート、時代背景の分析。楽曲のリズム、コード進行、歌詞の傾向などを分析、レクチャー。該当年代の楽曲の選定、コピー、演奏と歌唱、発表会実施。
【前期】 5～8回目	1960年代の邦洋楽曲、ヒットチャート、時代背景の分析。楽曲のリズム、コード進行、歌詞の傾向などを分析、レクチャー。該当年代の楽曲の選定、コピー、演奏と歌唱、発表会実施。
【前期】 9～12回目	1970年代の邦洋楽曲、ヒットチャート、時代背景の分析。楽曲のリズム、コード進行、歌詞の傾向などを分析、レクチャー。該当年代の楽曲の選定、コピー、演奏と歌唱、発表会実施。
【前期】 13～16回目	1980年代の邦洋楽曲、ヒットチャート、時代背景の分析。楽曲のリズム、コード進行、歌詞の傾向などを分析、レクチャー。該当年代の楽曲の選定、コピー、演奏と歌唱、発表会実施。
【前期】 17～19回目	学生任意の時代を意識したオリジナル楽曲の作成。作成した楽曲のディスカッション。発表会実施。 ■前期試験：楽曲の発表と筆記により「クオリティ/技術力/知識力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	1990年代の邦洋楽曲、ヒットチャート、時代背景の分析。楽曲のリズム、コード進行、歌詞の傾向などを分析、レクチャー。該当年代の楽曲の選定、コピー、演奏と歌唱、発表会実施。
【後期】 24～27回目	2000年代の邦洋楽曲、ヒットチャート、時代背景の分析。楽曲のリズム、コード進行、歌詞の傾向などを分析、レクチャー。該当年代の楽曲の選定、コピー、演奏と歌唱、発表会実施。
【後期】 28～31回目	2010年代の邦洋楽曲、ヒットチャート、時代背景の分析。楽曲のリズム、コード進行、歌詞の傾向などを分析、レクチャー。該当年代の楽曲の選定、コピー、演奏と歌唱、発表会実施。
【後期】 32～35回目	オリジナル楽曲の作成。作成した楽曲のディスカッション。発表会実施。
【後期】 36～37回目	1年間のまとめ。今後の楽曲制作、セルフマネージメントについて、ディスカッション。 ■後期試験：楽曲の発表と筆記により「クオリティ/技術力/知識力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽曲発表 / 知識力」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	古きを知り、新しきを生む。時代時代に合った楽曲が売れているのは確かです。 昔のサウンドが苦手な人も、たくさんのメロディーやコード進行に触れることで、新しい曲として昇華できるかもしれません。 そんな出会いの機会とさせていただければ幸いです。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ソングライティングⅡ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	作曲編曲Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・セイカ食品 シロクマ、ヴァーナル化粧品、アサカワ引越しセンター等のテレビCMコール ・シンガーソングライターとして、精力的にライブ活動を行い、CDもリリースしている。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「楽曲制作の技術と知識、歌唱技術等」の指導を行う。				
授業概要					
作詞作曲に必要なアイデアを増やす。メロディー作り。コード進行の構築。リズムの種類に対する理解。作文・ポエムにならないような曲作り。					
到達目標					
・生徒が作曲する作品の多くは偏ったジャンル、かつ狭い範囲で作成することが殆どである為、生徒が持ち合わせていない作詞作曲に関する知識、情報、テクニックを紹介し、センスの幅を広げてもらう。 ・生徒本人が持つ個性を自覚し、その個性を武器として、卒業後もその個性を追求し、アーティストとして作品作りが出来るようにする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ミディアムテンポで楽曲を作成。イーブンやシャッフルの意識を再確認してもらう。作詞にて、景色と気持ちのバランス、慣用句の使い方、固有名詞を入れるポイントを捉える。
【前期】 5～8回目	アップテンポで楽曲を作成。ハイテンポにおけるコードの適切な配置、ブレイクやキメなどのリズムの仕掛け作り。歌詞、ワードに対するポジティブとネガティブの切り分け、スピード感のある言葉などを捉える。
【前期】 9～12回目	スローテンポ(バラード)で楽曲を作成。スローテンポにおける歌詞とコードの関係、響きを思考し、ギター、ピアノで弾き語る際のバリエーションを増やす。3拍子、6/8拍子、3連のリズムで楽曲を作成。拍子の理解を深める。
【前期】 13～16回目	マイナーKeyで楽曲を作成。メジャースケール、マイナースケールのおさらい。ハーモニックマイナー、メロディックマイナー、マイナーペンタニック、その他様々なスケールを使ったメロディ作りの実践。
【前期】 17～19回目	シャッフルビートで楽曲を作成。8ビートシャッフル、16ビートシャッフルの実践的な使い方。ダイアトニックコード、代理コード、セカンダリードミナントなど、コード理論の再認識。 ■前期試験: 楽曲の制作により「作曲のクオリティ/作詞のクオリティ/音楽要素の理解」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	ロックンロールで楽曲を作成。ロックンロールの定義についての研究。ロックとロックンロールの違いについて、ギターやピアノでのアプローチも含めて解説。子音、母音のタイミングなど、言葉のリズムについて考える。
【後期】 24～27回目	ブルースで楽曲を作成。ブルースを構築するコード、小節の理解。ブルーノートを使ったメロディを意識する。R&Bで楽曲を制作。昨今のリズムアンドブルースについて研究。リズム、アンサンブル、サウンドから”ノリ”について掘り下げる。
【後期】 28～31回目	ボサノヴァで楽曲を作成。ボサノヴァの文化について、J-Popにおけるボサノヴァの使われ方を研究。ボサノヴァとサンバの違いについて理解する。モントゥーノ奏法について解説。ウイスパーボイスなど、楽曲に合わせた発声の研究。
【後期】 32～35回目	レゲエで楽曲を制作。レゲエの歴史について調べる。黒レゲエと白レゲエの違い。裏拍、バックビートの使い方、ギターの音色について研究。HIP HOPで楽曲を作成。HIP HOPの歴史について調べる。J-Popとの関わり。ワードの乗せ方など。
【後期】 36～37回目	ルーツミュージックを踏まえた楽曲の作成。習得してきた知識、情報、テクニックを駆使し、自身の個性を活かした楽曲を制作。様々な選択肢の中から、意思を持って取捨選択する。卒業後に向けてより実践的な作詞作曲。 ■後期試験: 楽曲の制作により「作曲のクオリティ/作詞のクオリティ/音楽要素の理解」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	作詞作曲は、シンガーソングライターやその他の音楽業界に於いても核となるとも重要な業務です。そして活動の限り作り続けていかなければなりません。楽曲へアウトプットしていくために必要な情報や知識のインプットとその方法を、様々な角度から音楽に触れて楽しみながらしっかり学んでいきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオワーク		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	作品制作	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギターヴォーカル/ギター/ベース/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・セイカ食品 シロクマ、ヴァーナル化粧品、アサカワ引越しセンター等のテレビCMコール ・シンガーソングライターとして、精力的にライブ活動を行い、CDもリリースしている。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「楽曲制作の技術と知識、歌唱技術等」の指導を行う。				
授業概要					
基礎課程で積み上げてきた知識、技能の総体としてクリエイティブな応用実践で音楽やパフォーマンス作品を作り上げていきます。また、グループプロジェクトとして企画、打合せ、譜面制作、リハーサル、レコーディング、ステージ本番に至るスケジューリングを行い、構成員の考えや芸術観などお互いにコネクトしながらより良い制作の方法を考えることにも重点を置きます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・エンターテインメントの基本構造の理解、表現学習、作品制作、ステージ発表などを習得のサイクルとし、徐々に表現レベルを上げていきます。 ・メンバー全員でひとつのプロジェクトを作ることを経験し、今後の活動に生かすことが出来るようにし、且つクオリティーの高い楽曲制作と演奏が出来るようにシミュレーションを重ねます。 ・自身のポテンシャルを高めて、将来的な可能性の幅を広げることが可能になります。 ・チームワーク、協調性を養います。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	決められたメンバーと協力し合い、ひとつのプロジェクトを作り、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【前期】 9～16回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【前期】 17～24回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【前期】 25～32回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【前期】 33～38回目	前期の授業で制作してきた作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■前期試験：作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 39～46回目	後期はより高度なプロジェクトコンセプトをグループごとに思考し、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【後期】 47～54回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【後期】 55～62回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【後期】 63～70回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【後期】 71～74回目	後期の授業で制作した作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■後期試験：作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一作品をグループで作りに上げるプロセスの中で生じる葛藤や苦悩という生みの苦しみを経験しながら、作品完成時に感じる達成感や喜びを授業を通してシミュレーションしておきましょう。また基礎課程で培ったパーツを組み合わせる応用課程のクリエイティビティも存分に発揮してください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニングⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター/ギターヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	The 8th Music Revolution Hi-Gain大会でグランプリを獲得。・V3新人オーディション20thファイナリストに選出)そのポテンシャルの高さを披露。2012年には、Fukuoka Music Factoryの第6弾ファイナルアーティストに選出される。2016佐賀年気球世界選手権応援ソングに「Life」が採用される。2020年配信弾き語りワンマンライブ「Voyage」を開催。				
授業概要					
歌唱の基礎であるチェストボイス～ミックスボイス(ミドル)～ヘッドボイスの声区融合とリズム感を習得していく。また様々な歌唱テクニックを習得していく。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・様々なスケールを用い、声区融合を目指す。また、4分音符、8分音符、1拍3連、16分音符のリズムを体で理解し、歌唱へ反映させていく。 ・様々な歌唱テクニックを習得し歌唱へ反映させていく。 ・チェストボイス～ミックスボイス(ミドル)～ヘッドボイスの声区融合の習得。歌唱のためのリズム感を習得。様々な歌唱テクニックを習得。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	個人発声状態チェック。トレーニングメニュー説明&実践。スケール発声。リズムトラックを使ったリズムトレーニング。
【前期】 5～8回目	Level1の発声とリズムのトレーニングメニュー実践。課題曲①での実践。(チェストボイス、裏声、ウイスパー等のテクニックに挑戦。)
【前期】 9～12回目	Level2の発声とリズムのトレーニングメニュー実践。課題曲②での実践。(コブシ、しゃくり、フォールのテクニックに挑戦。)
【前期】 13～16回目	Level3の発声とリズムのトレーニングメニュー実践。課題曲③での実践。総合的ボーカルディレクション。
【前期】 17～19回目	まとめ。テスト対策。 ■前期試験:課題曲の歌唱により「発声に関する用語、仕組み/発声 / リズム」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	Level5の発声とリズムのトレーニングメニュー実践。課題曲⑤での実践。総合的ボーカルディレクション。
【後期】 24～27回目	Level6の発声とリズムのトレーニングメニュー実践。課題曲⑥での実践。総合的ボーカルディレクション。
【後期】 28～31回目	Level7の発声とリズムのトレーニングメニュー実践。課題曲⑦での実践。総合的ボーカルディレクション。
【後期】 32～35回目	Level8の発声とリズムのトレーニングメニュー実践。課題曲⑧での実践。総合的ボーカルディレクション。
【後期】 36～37回目	まとめ。テスト対策。 ■後期試験:課題曲の歌唱により「発声に関する用語、仕組み/発声 / リズム」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「発声に関する用語、仕組み/発声 / リズム」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	発声とリズムは歌唱の基礎で最も重要な技術です。しっかりと向き合うことにより確実に成長させましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	歌唱実習Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	The 8th Music Revolution Hi-Gain大会でグランプリを獲得。・V3新人オーディション20thファイナリストに選出)そのポテンシャルの高さを披露。2012年には、Fukuoka Music Factoryの第6弾ファイナルアーティストに選出される。2016佐賀年気球世界選手権応援ソングに「Life」が採用される。2020年配信弾き語りワンマンライブ「Voyage」を開催。				
授業概要					
自ら選んだ楽曲を歌いこみながらテクニックをきめ細やかに、また感情表現をより深めながらシンガーとしての自らをワークショップスタイルの中で確立していきます。生徒それぞれにまだ獲得できていない表現方法を課題曲として与え、獲得に導く。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 与えられた課題曲に対し、生徒自身がその楽曲に合う表現方法を考慮しパフォーマンスすることができるようになる。 既存曲のカバーをする際も、オリジナル曲を自身でパフォーマンスする際も、オーディエンスに届く歌唱、音色(声色)選びができるような思考を定着させる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	課題曲1(日本語の楽曲で自由選択)
【前期】 5～8回目	課題曲2(日本語の楽曲、それぞれに必要なテクニックのある楽曲を講師より)
【前期】 9～12回目	課題曲3(英語の楽曲で自由選択)
【前期】 13～16回目	課題曲4(英語の楽曲、それぞれに必要なテクニックのある楽曲を講師より)
【前期】 17～19回目	表現・パフォーマンス(課題曲1～4の中で1曲をライブシミュレートパフォーマンス) ■前期試験:課題曲の歌唱により「歌唱時の音色(声色)の使い方 / 歌詞への理解度 / 総合表現力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	レパートリー1(自身の財産となるようなレパートリー楽曲の追求)
【後期】 24～27回目	レパートリー2(自身の財産となるようなレパートリー楽曲の追求)
【後期】 28～31回目	レパートリー3(自身の財産となるようなレパートリー楽曲の追求)
【後期】 32～35回目	レパートリー4(自身の財産となるようなレパートリー楽曲の追求)
【後期】 36～37回目	模擬ライブパフォーマンス(課題曲1～4&レパートリー1～4の中から数曲を選択し一定時間、MCも含め20分ほどのライブパフォーマンスを構築する) ■後期試験:課題曲の歌唱により「歌唱時の音色(声色)の使い方 / 歌詞への理解度 / 総合表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「歌唱時の音色(声色)の使い方 / 歌詞への理解度 / 総合表現力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	表現の幅、歌唱における様々なテクニックなど、さらにより高度なものへと押し上げ、自分自身がどのように表現したいのかをオーディエンスに確実に伝えることができるように磨き上げていきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	シンガーソングライター実習Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・Back Number、中村 正人(DREAMS COME TRUE)等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・自身もシンガーソングライターとして九州各地でライブ活動を行う。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、楽器知識等」の指導を行う。				
授業概要					
実践を想定して各自テーマ毎に課題曲(主にオリジナル)を決め、歌唱力、演奏力、表現力を高めていきます。また、他生徒の楽曲にもコーラス・楽器演奏等で参加し、音楽の幅を広げます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の構成や「歌詞」「メロディー」「コード」「リズム」「ダイナミクス」から表現の意図を理解する。 ・自身の個性(良し悪し)を自ら理解する。 ・課外ステージでも披露できる楽曲(持ち曲)を増やす。 ・楽曲の構成や表現の意図を理解することで、作詞、作曲、編曲時に推敲することができる。 ・自ら気づきを持つことで、自身を高め続けることができる。 ・他パートやリスナーへ、自身の考えや曲のイメージを伝えることができる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	授業趣旨の共有、理解。【課題曲①】楽曲考察。資料作成。【課題曲①】アレンジを数パターン思考。弾き語り(もしくは自作音源)にて、各アレンジで演奏。表現効果の考察。歌唱、表現の練習。♫プロのカバー音源を参考に、アーティスト研究。
【前期】 5～8回目	【課題曲②】各自曲決め、キー設定、楽曲考察。資料作成。【課題曲②】アレンジ思考。弾き語り(もしくは自作音源)にて楽曲のベース作り。歌唱、リズム練習。【課題曲②】他パートへ思考を伝え、表現、歌唱の練習。表現効果考察。
【前期】 9～12回目	【課題曲③】各自曲決め、キー設定、楽曲考察。資料作成。【課題曲③】アレンジ思考。弾き語り(もしくは自作音源)にて楽曲のベース作り。歌唱、リズム練習。【課題曲③】他パートへ思考を伝え、表現、歌唱の練習。表現効果考察。
【前期】 13～16回目	【課題曲④】各自曲決め、キー設定、楽曲考察。資料作成。【課題曲④】アレンジ思考。弾き語り(もしくは自作音源)にて楽曲のベース作り。歌唱、リズム練習。【課題曲④】他パートへ思考を伝え、表現、歌唱の練習。表現効果考察。
【前期】 17～19回目	前期テストに向けて、楽曲決め、キー設定、資料作成。アレンジ思考。弾き語り(もしくは自作音源)にて楽曲のベース作り。歌唱、リズム練習。表現効果考察。 ■前期試験:課題曲の歌唱・演奏により「楽曲の理解 / 表現力 / 演奏力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【課題曲⑤】各自曲決め、キー設定、楽曲考察。資料作成。【課題曲⑤】アレンジ思考。弾き語り(もしくは自作音源)にて楽曲のベース作り。歌唱、リズム練習。【課題曲⑤】他パートへ思考を伝え、表現、歌唱の練習。表現効果考察。
【後期】 24～27回目	【課題曲⑥】各自曲決め、キー設定、楽曲考察。資料作成。【課題曲⑥】アレンジ思考。弾き語り(もしくは自作音源)にて楽曲のベース作り。歌唱、リズム練習。【課題曲⑥】他パートへ思考を伝え、表現、歌唱の練習。表現効果考察。
【後期】 28～31回目	【課題曲⑦】各自曲決め、キー設定、楽曲考察。資料作成。【課題曲⑦】アレンジ思考。弾き語り(もしくは自作音源)にて楽曲のベース作り。歌唱、リズム練習。【課題曲⑦】他パートへ思考を伝え、表現、歌唱の練習。表現効果考察。
【後期】 32～35回目	【課題曲②～⑦】実践を想定し、各20分程のクラスライブを実施。これまでの課題曲を含めた複数の楽曲とMCを交え、ステージングを習得する。
【後期】 36～37回目	後期テストに向けて、楽曲決め、キー設定、資料作成。アレンジ思考。弾き語り(もしくは自作音源)にて楽曲のベース作り。歌唱、リズム練習。表現効果考察。1年のまとめ。 ■後期試験:課題曲の歌唱・演奏により「楽曲の理解 / 表現力 / 演奏力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽曲の理解 / 表現力 / 演奏力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	昨今のシンガーソングライターの在り方は様々です。楽曲を通して何を伝えたいのか、伝えたいことをどう表現するのか、その内容や方法は無限に存在します。自身の考えを模索しながら、「これだ!」というオリジナリティを見つけていきましょう。そのイメージを相手に伝えることも、音楽に限らず重要です。身につけましょう。自分にあった伝え方が必ずあります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オリジナルライブ実習Ⅱ①		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<p>楽曲「小さな光」「少しだけ」「少年」などメジャーレーベルからCDをリリース。 自身もDUOでシンガーソングライターとして精力的にライブ活動を実施している。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「歌唱と演奏の技術、アンサンブル力、表現力等」の指導を行う。</p>				
授業概要					
<p>製作系の授業を通してアウトプットしたオリジナル楽曲を、バンドアンサンブルを用いて実演、歌唱し、アーティスト像を形成していく。また他の楽器プレイヤーとのリレーションを理解し行動していくことで人間関係の構築の仕方なども磨いていく。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・アーティスト像を前面に押し出すためのパフォーマンスを意識したライブ感(バンドサウンドのダイナミクス、希望する照明の演出を含めて)を追求し研鑽する。 ・楽曲のバリエーションを多岐に渡らせ、オーディエンスを飽きさせないサウンド志向を自身のアーティスト象とパッケージングする。 ・校外に出て活動をする際に、どの業種の人材と関わる際にも、準備、段取りを大事にする姿勢を完成させる。(自身の作る作品が他人の仕事を作るエンターテインメントありうる事を自覚させる。) 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	オリジナル楽曲① ※随時、実習時のパフォーマンステーマは製作のテーマとリンクしますので別紙で確認。
【前期】 5～8回目	オリジナル楽曲②
【前期】 9～12回目	オリジナル楽曲③
【前期】 13～16回目	オリジナル楽曲④
【前期】 17～19回目	校内イベントライブ公演実習期間
【後期】 20～23回目	オリジナル楽曲⑤
【後期】 24～27回目	オリジナル楽曲⑥
【後期】 28～31回目	オリジナル楽曲⑦
【後期】 32～35回目	オリジナル楽曲⑧
【後期】 36～37回目	卒業イベントライブ公演実習期間
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「クオリティ / 表現力 / 演奏力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	1年次からすれば、オリジナルソングの製作ベースがかなり早いですし、大変ですが前向きに頑張りましょう！！
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オリジナルライブ実習Ⅱ②		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当	■ 非該当 □
担当講師 実務経歴	<p>楽曲「小さな光」「少しだけ」「少年」などメジャーレーベルからCDをリリース。 自身もDUOでシンガーソングライターとして精力的にライブ活動を実施している。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「歌唱と演奏の技術、アンサンブル力、表現力等」の指導を行う。</p>				
授業概要					
<p>製作系の授業を通してアウトプットしたオリジナル楽曲を、バンドアンサンブルを用いて実演、歌唱し、アーティスト像を形成していく。また他の楽器プレイヤーとのリレーションを理解し行動していくことで人間関係の構築の仕方なども磨いていく。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・アーティスト象を前面に押し出すためのパフォーマンスを意識したライブ感(バンドサウンドのダイナミクス、希望する照明の演出を含めて)を追求し研鑽する。 ・アンサンブル基礎Ⅱに基づき、楽曲のバリエーションを多岐に渡らせ、オーディエンスを飽きさせないサウンド志向を自身のアーティスト象とパッケージングする。 ・校外に出て活動をする際に、どの業種の人材と関わる際にも、準備、段取りを大事にする姿勢を完成させる。(自身の作る作品が他人の仕事を作るエンターテインメントありうる事を自覚させる。) 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	オリジナル楽曲① ※随時、実習時のパフォーマンステーマは製作のテーマとリンクしますので別紙で確認。
【前期】 5～8回目	オリジナル楽曲②
【前期】 9～12回目	オリジナル楽曲③
【前期】 13～16回目	オリジナル楽曲④
【前期】 17～19回目	校内イベントライブ公演実習期間
【後期】 20～23回目	オリジナル楽曲⑤
【後期】 24～27回目	オリジナル楽曲⑥
【後期】 28～31回目	オリジナル楽曲⑦
【後期】 32～35回目	オリジナル楽曲⑧
【後期】 36～37回目	卒業イベントライブ公演実習期間
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「クオリティ / 表現力 / 演奏力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	1年次からすれば、オリジナルソングの製作ベースがかなり早いですし、大変ですが前向きに頑張りましょう！！
備考	